



ネッツトヨタ山陽株式会社

2023年度 環境経営レポート

(対象期間：2024年1月～2024年3月)



発行日：2024年7月31日

目 次

- 【1】 組織の概要
- 【2】 実施体制図及び役割・責任・権限表
- 【3】 環境経営方針
- 【4】 目標及びその実績と判定・次年度目標
- 【5】 環境経営活動の紹介
- 【6】 環境関連法規等の順守状況の評価の結果
- 【7】 環境経営計画及び取組結果とその評価、
次年度の取組内容
- 【8】 代表者による全体の評価と見直し

【1】組織の概要

(1) 名称及び代表者名

ネットヨタ山陽株式会社
代表取締役社長 鈴木 賢史

(2) 所在地

本社	〒701-0203	岡山県岡山市南区古新田1166
高柳店	〒700-0035	岡山県岡山市北区高柳西町11-18
東岡山店	〒703-8222	岡山県岡山市中区下470
原尾島店	〒703-8235	岡山県岡山市中区原尾島3丁目8-8
岡南店	〒702-8035	岡山県岡山市南区福浜町3-7
倉敷店	〒710-0803	岡山県倉敷市中島1401
水島店	〒712-8051	岡山県倉敷市中畝2-9-28
笠岡店	〒714-0086	岡山県笠岡市五番町2-5
津山店	〒708-0885	岡山県津山市井ノ口2-21
BPセンター	〒710-0803	岡山県倉敷市中島1401

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 総務室 次長 岩田 崇
担当者 総務室 総務G 橋本 菜々
TEL：086-282-5579 FAX：086-281-3340
E-mail：hashimoto-n@netz-sanyo.co.jp

(4) 事業内容

トヨタ系新車、各種中古車販売
中古車の買取り
自動車の車検及び点検整備、板金
自動車部品・用品の販売
JAF代理店
自動車損害保険及び一般損害保険代理店
生命保険代理店

(5) 事業の規模

売上高 110億317万円(令和4年)

	従業員 (人)	延べ床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)
本社	87	3,090	9,807
高柳	22	1,660	3,441
東岡山店	15	743	2,238
原尾島店	14	1,611	2,731
岡南店	19	1,130	2,831
倉敷店	25	737	3,824
水島店	14	688	2,110
笠岡店	14	1,250	2,039
津山店	20	934	2,435
BPセンター	11	1,153	2,045
合計	241	12,996	33,501

エコアクション21対象従業員数 241名

(6) 事業年度 4月～翌年3月

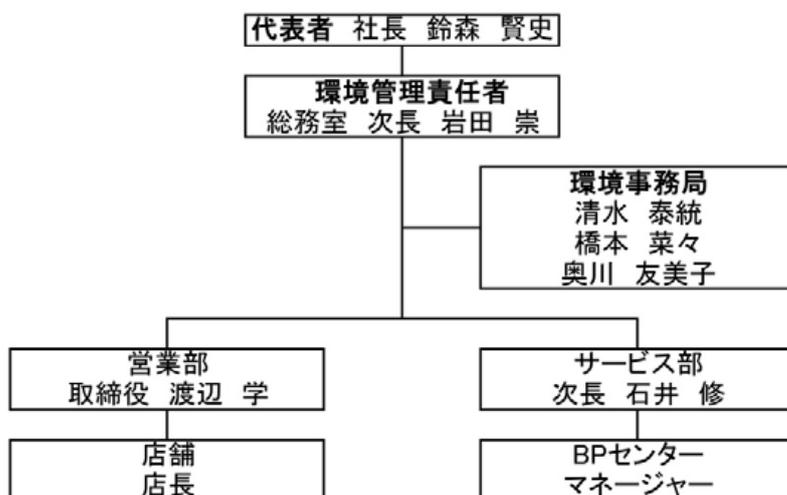
認証・登録の対象組織・活動

全組織・全活動

※エコアクション21認証・登録制度における「従業員」とは、「法人を構成する全ての者及び個人事業主に雇用されている者」とし、「法人を構成する全ての者」には、代表者、常勤の役員、派遣、パート、アルバイト等も全て含まれます。なお、パート、アルバイト、派遣社員の人数は、常勤職員数に換算して従業員数に加えてください。(例えば常勤職員が週5日勤務の場合、週2.5日勤務の者2名で常勤1名と換算)

【2】実施体制図及び役割・責任・権限表

作成日：2023年11月13日



責任者及び担当者	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 経営における課題とチャンスの明確化 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規制等取りまとめ表の作成、遵守評価の実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境教育訓練計画の作成と実施の管理 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括 環境経営計画の実施結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境経営計画の実績集計 環境経営レポートの作成、公開(事務所への備付けと地域事務局への送付) 環境経営の実施状況の評価、見直し 環境教育の内容検討、実施結果の評価 特定された項目の手順書作成 (緊急事態への対応を含む) 自部門の環境上の緊急事態の想定と対応手順のテスト、訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
部門長(営業部・サービス部)	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの実施 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境経営の実施及び達成状況の報告 特定された項目の運用管理
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

【3】 ネットトヨタ山陽株式会社 環境経営方針

基本理念

当社は、自動車の販売を主とする事業活動において、地球環境の保全が社会共通の重要課題であることを認識し、環境ならびに温暖化対策・省エネに配慮した企業活動を行い、より豊かな社会の発展に貢献します。

環境行動指針

環境マネジメントシステムを確立し、運用することによって、継続的改善を誓約します。

1. 二酸化炭素排出量を削減します。重点分野として、ガソリン・軽油使用量削減を推進します。
2. 廃棄物排出量の削減及び廃棄物の再生利用を推進します。
3. 水道使用量の削減を推進します。
4. 化学物質使用量の適正管理を推進します。
5. 環境に配慮した製品の販売を推進します。
6. 地域のボランティア、教育活動に積極的に参加します。
7. 環境関連法規等を遵守します。
8. 本方針を全従業員に周知徹底します。

制定日：2023年11月6日

代表取締役社長

鈴木賢史

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【4】 目標及びその実績と判定・次年度目標

環境経営目標		単位	試行期間初めに策定						
			基準年度		目標				
			2022年度		2023年度			2024年度	2025年度
			4月～3月	1～3月	試行期間（1～3月）				
目標	実績	判定							
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	1,041,468	272,755	270027以下 (-1%)	281,059	×	1020639以下 (-2%)	1010224以下 (-3%)
	1-1 電力使用量の削減	kWh	1,222,413	326,613	323347以下 (-1%)	328,901	×	1197965以下 (-2%)	1185741以下 (-3%)
	1-2 ガソリン使用量の削減	ℓ	137,546	35,427	35073以下 (-1%)	37,421	×	134795以下 (-2%)	133420以下 (-3%)
	1-3 軽油使用量の削減	ℓ	25,846	5,946	5887以下 (-1%)	6,958	×	25329以下 (-2%)	25071以下 (-3%)
2	水使用量の削減	m ³	8,574	2,226	2204以下 (-1%)	2,174	○	8403以下 (-2%)	8317以下 (-3%)
3	産業廃棄物排出量の削減	t	184	46	46以下 (-1%)	43	○	180以下 (-2%)	179以下 (-3%)
4	エコカーの販売	台	実績把握後に目標設定						
5	社会貢献活動	回	随時						

注：電力からのCO₂排出量算出は令和4年度の中電の二酸化炭素排出係数：0.536kg-CO₂/kWh中を使用

注：2022年度1-3月の産業廃棄物排出量は2022年度の年間排出量の1/4とした

注：環境経営計画は次年度も継続して行います

【5】環境経営活動の紹介

(1) 電力使用量の削減

写真 1

◆ 一斉ライトダウンキャンペーンを実施 ※写真 1

- ・岡山市の取り組みに連携し、6月下旬～7月上旬の約2週間、一斉ライトダウンキャンペーンを実施しました。

お客様が少なくなる夕方以降、業務に支障のない範囲で消灯し、併せてお客様へチラシの配布や声掛け等でこの活動を発信しました。

あえて照明を消すことで、省エネ意識を高め、地域温暖化防止につながる取り組みを継続的に実施しています。



(2) ガソリン使用量の削減

写真 2

◆ エコドライブの実施 ※写真 2

- ・チラシを食堂や事務所内など、社員が目にとまりやすいところへ掲示し、意識向上へ繋がりました。社用車を運転する際は特に、エコドライブに徹するよう声掛けをしています。

◆ Web会議の推進

- ・月2回本社で行われる責任者会議を月1回zoomで開催しています。他研修など以前は本社で行われていたが、zoomを推進することによって、ガソリン使用量の削減に繋がっています。



(3) 水使用量の削減

写真 3

◆ 節水POPの貼り付け ※写真 3

- ・節水POPを工場や事務所、トイレなどの水道蛇口近くに貼り付けし、意識を高めています。



(4) 地域貢献活動

写真 4

◆ TOYOTA SOCIAL FES 参加 ※写真 4

- ・全国50か所で行う参加型アクションプログラム。楽しみながら自然を守るという想いのもと毎年イベントに参加をして、海や川をきれいにしたり、水辺の自然を守ったりしています。



写真 5

◆ トヨタ未来スクールの開催 ※写真 5

- ・未来を担う「こどもたちの可能性をはぐくみたい」という想いから、地域の小学校へ出張し、「原体験プログラム」の授業を実施しました。子どもたちが楽しみながら学べるプログラムを今後も地域・家庭・協力関係各社と連携しながら進めていきます。



写真 6

◆ インターンシップ・職場体験の受け入れ ※写真 6

- ・職業生活・社会生活に必要な知識、学ぶこと・働くことの意義等、わたしたちと一緒に働くことで、大学生や中学生の職業意識の向上に繋がればと思い、積極的に受け入れをしています。



障がい者などハンディーキャップをもった方々の の作成物を提供 ※写真 7

写真 7

- ・ユーザー様のご紹介などを中心に、全店舗おもてなしのお菓子で利用しています。
お客様にも大変ご好評いただいております。今後も積極的に利用していきたいと思っています。



店舗周辺定期清掃活動 ※写真 8

- ・毎月、第一木曜日に店舗周辺の美化活動を実施しています。



写真 8

健康経営優良法人認定 ※写真 9・写真 10

- ・2019年から連続6回目（内2021年・2022年はブライト500）、健康経営優良法人の認定をもらいました。
店内に体組成計・血圧計を設置して、お客様でも気軽に測れるようにし、健康に対する意識向上を図っています。
また、27歳以上の社員は活動量計を持ち、全社でウォーキングコンテストを実施しました。従業員の健康づくりにも力を入れています。

写真 9



写真 10



【6】環境関連法規等の順守状況の評価の結果

主な環境関連法などおよび順守評価結果は、下表の通りです。

環境関連法規等	順守評価
水質汚濁防止法	順守
浄化槽法	順守
騒音・振動規制法	順守
廃棄物処理法	順守
自動車リサイクル法	順守
フロン排出抑制法	順守
消防法	順守

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、特定されたすべて法規等が順守されていることを確認しました。

なお、環境関連法規等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。

【7】 環境経営計画及び取組結果とその評価、 次年度の取組内容

		実施状況	
二酸化炭素排出量の削減：未達成(3%増)			
電力使用量の削減：未達成(1%増)			
・空調温度の適正化 (冷房28℃暖房23℃)	△	継続	冷房時の28℃は実施できたが、暖房の23℃は実施できなかった部署があるため、周知徹底していく。
・電気使用量の把握と削減目標の設定	◎	継続	電気使用量は毎月、会議での展開をしているので把握できている。削減目標は、全社共有ファイルにて開示している。次年度は、毎月の総務NEWSなどにも掲載して目に触れる機会を増やす。
・エアコンフィルターの定期清掃	△	継続	部署によりエアコン取付位置が高所にあり清掃が困難なケースがあった。作業困難なエアコンについては、本部管理で定期的な清掃・点検が実施できるように仕組みを作る。
・夜間、休日のPC主電源OFF	○	継続	全社定着しているが、新入社員への周知徹底のため、引き続き定期的な啓蒙活動を継続する。
ガソリン使用量の削減：未達成(5%増)			
・エコドライブの実施	△	継続	啓蒙活動実施でかなり意識は上がったが完全ではない。引き続き交通安全運動の開催とセットで意識付けを推進する。
・WEB会議の推進	○	強化	中間会議のZOOMは定着。その他の研修などでも推進していく。
水使用量の削減：達成(3%減)			
・水使用量の把握と削減目標の設定	○	強化	電気使用量同様に実施する。
・節水シールの貼り付け	○	継続	風化しないよう定期的にシールの変更を実施する。
・ポディーコート推奨	○	継続	ポディーコート販売件数は増えているが、「節水」より「ポディーコートを売る」ことが先行しているケースがある。次年度は「節水」をキーワードでの推販に拘る。
産業廃棄物排出量の削減：達成(22%減)			
・分別によるリサイクルの推進	△	強化	スペースの問題で分別が困難な部署があった。次年度は部署ごとにできることを増やしていき全部署で何らかの分別を進める。
・マニフェスト電子化の導入	×	強化	担当人員が一人で電子化以降ができなかった。次年度は人員を確保して早期導入を目指す。
エコカーの販売促進：現状把握			
・HEV・PHEV・BEVの販売促進	◎	継続	エコカーへのニーズの高まりもあり、好調に推移した。このまま推進していく。
地域貢献活動：			
・TOYOTA SOCIAL FES 参加	◎	継続	毎年10月開催、参加
・トヨタ未来スクール開催	◎	継続	2月に開催、次年度は10月開催予定
・インターンシップ・職場体験受け入れ	○	継続	時期を絞って開催していたが、次年度は通年で開催できるようにスケジュールを拡大。
・ハンディキャップの方々の作成物使用	◎	継続	全部署でお客様へのおもてなしとしての使用が定着してきている。
・店舗周辺清掃活動	△	強化	一年で1回のみでの開催となってしまったので、次年度は回数を増やし定期的な開催が定着できるように仕組みを作る。

【8】 代表者による全体の評価と見直し

当社は、自動車販売を中心とした事業活動において、地球環境の保護が社会全体の重要な課題であることを念頭に、環境保護や温暖化防止、省エネに配慮した企業活動を実践し、豊かな社会の発展に寄与することを目指すことを宣言し、まずは土台作りから始めていきました。

しかし、エコアクション21の取り組みにおいては、全部署をあげて活動してまいりましたが、まだまだすべての従業員には十分に浸透していないと判断しています。

具体的には、水使用量削減において、水道まわりに節水POPの貼り付けを実施するとともに、ボディーコートの推進販売を「洗車回数を減らして環境に配慮できる」ことを謳い文句に進めていましたが、単純に販売するだけが多く見られ、実際の現場スタッフへの落とし込みが不十分だったと認識しています。

これを実現するためには、全従業員を対象とした教育の実施や啓発活動を通じて、活動の目的や取り組み内容を徹底的に周知し、進捗状況を開示することが重要です。来季には、定期的な進捗管理と情報公開を確実に行うよう指示しました。

ネットトヨタ山陽株式会社

代表取締役社長

鈴木賢史